

2011. 7. 23 (土)
17:00 ~ 19:00 (16:30 開場)
上智大学 10 号館講堂

JR中央線・総武線、東京メトロ丸の内線・南北線 四ツ谷駅より徒歩5分

東日本大震災とどう向き合うか 被災地から見た3・11

岩手県大船渡市 医師

山浦玄嗣 講演会

岩手県大船渡市の医師・山浦玄嗣さんは、聖書を地元の方言「ケセン語」に翻訳したことで知られている。自らも被災し、大津波に見舞われたガレキの町で、医師として人々を支え続けた。惨害の野に立った時、山浦さんの胸に去来したのは、絶望は絶望のままおわらないということ。そして「祈り」とは、目の前の出来事の中にあらわれる神の声を聞くことだ、ということだった。今、聖書を読みながら、災禍を引き受けて生きる希望を語る。



山浦 玄嗣 やまうら はるつぐ

1940年東京で生まれ、釜石市、気仙郡越喜来村に育ち、その後気仙郡盛町（現大船渡市）に移る。

1966年、東北大学医学部卒業後、1971年、同大学院医学研究科外科学専攻卒、医学博士となる。1981年、東北大学抗酸菌病研究所放射線医学部門助教授。

1986年、郷里に戻り、大船渡市盛町で山浦医院を開業し、現在に至る。

専門の医学のかたわら、ふるさと気仙地方の言葉『ケセン語』の研究に余暇を捧げ、『ケセン語入門』（1987年、日本地名学会「風土研究賞」受賞、詩集『ケセンの詩』（1989年、岩手県芸術選奨受賞）、ケセンの歴史を書いた『ヒタカミ黄金伝説』（1998年、自費出版文化賞—学芸部門—受賞）、『ケセン語大辞典』（2000年、岩手日報文化賞受賞）、『ケセン語新約聖書・マタイによる福音書／マルコによる福音書／ルカによる福音書／ヨハネによる福音書』（2002～04年、大船渡印刷）、『父さんの宝物』（2003年、イー・ピックス）、『ケセン語の世界』（2007年、明治書院）などの著書がある。1990年、岩手県地方の言葉の研究と文化の振興により岩手県教育表彰受賞。2002年、大船渡市市政功労者表彰（文化功労）受賞。

入場無料、申込み不要

当日会場にて被災地復興のための
募金にご協力をお願いします。

主催：（学校法人）上智学院

共催：カトリック東京国際センター（CTIC）／カトリック東京ボランティアセンター（CTVC）／カトリック麹町教会／難民支援協会

協力：女子パウロ会宣教センター

問合せ先：上智大学カトリックセンター TEL：03-3238-4161